

# よいものを長く 装いに哲学



のチャールズ国王のスタイル

ウェストミンスターホールのいすに座るチャールズ国王 (AP)



ネクタイ、ポケットチーフ、襟元の飾りが調和し、華やぎを生む (ロイター)

## 英国王チャールズ3世



「王室メンバーの装いは、現代においても紳士、淑女のファッションの規範です。さかのぼれば17世紀後半にチャールズ2世が、当時蔓延していたペストなどで疲弊した社会での一種の儉約の象徴として王侯貴族の服装を簡略化したのが、現在のスーツの様式の元祖です。スーツ発祥の国である英国を代表するシェントルマンスタイルのアイコン(象徴)として、現代のチャールズ国王のスタイル

英国王に即位したチャールズ3世は、皇太子時代より王室のスタイルアイコンとして、その装いがメディアの脚光を浴びてきた。正統的な紳士の規範となる国王の服装術には、自身が長年取り組んできた環境保護活動や国内の伝統産業への支援といったサステナブル(持続可能)な哲学が体現されているという。英国王室のファッションに詳しい服飾史家の中野香織氏

写真に聞いた。(末崎慎太郎)



皇太子時代のチャールズ国王。ダブルのスーツにネクタイ、ポケットチーフ、襟飾りが映える。平成20年10月、長野県信濃町

んだ、国王としての初演説の際には、黒のネクタイに白と黒のチェック柄のポケットチーフを挿していました

かつては、エドワード7世やエドワード8世(ウィンザー公)といった洒落者もいました

「チャールズ国王の場合、大伯父のウィンザー公のような、ネクタイのノット(結び目)を強調したウィンザーノットや、スーツにスエードの靴を合わせたりするエキセントリックな装いをすることはありません

「国王自身の『買うなら一度だけ、よいものを買え』との言葉にも表れているように、高品質のものを長く使い続けるという考えがあるのでしょう。国王のお召し物の継ぎ当ては、『チャールズパッチ』の呼び名で浸透しています。いまでも30年ほど前のコートを着ていたり、20代のとき

にロンドンのビスポーク靴店であつらえた靴をはいたりしています。時代の流行に左右されないという国王の性格がうかがえると同時に、サステナビリティー(持続可能性)に対する意志も表れています

「国王は環境保護への取り組みに熱心であることも知られています

「国王はすでに1960年代の終わりに、プラスチックごみの問題を取り上げ、啓発活動を行ってきました。皇太子時代には『プリンス・オブ・サステナビリティ』とも呼ばれており、2021年の「ワン・プラネット・サミット」では『テラ・カルタ(地球憲章)』を提唱し、持続可能な未来へのロードマップを示しました

「国王の装いには、立場に伴う義務や価値観が表れているようにです

「ファッションとサステナビリティーという観点では、国王が好んで着用するスコットランドの伝統的な毛織物「ツイード」の産業支援や職人の養成など、国内の伝統産業を次世代に継承することにも尽力しています。国王のスタイルは、そうした美学や哲学が背景となつて、重層的な魅力を帯びているでしょう」